



題名 「星と東京タワーとモンスター」

♥作品解説♥

芝公園教室といえば？とみんなで考えてテーマを決めました。色は赤と青をメインにしました。
東京タワーは描き、モンスターと星は活動で作し、最後に合体しました。(スマートキッズプラス芝公園)

お子さまの取り巻く全ての環境にアプローチするために

研究員 福本 有紗

【スマートキッズの様々な療育支援】

スマートキッズの教室には、放課後等デイサービスと児童発達支援の2種類がございます。その中で、ご利用者さまのお困りごとや課題に応える形で、スマートキッズプラス・スマートキッズジュニア・スマートキッズソリスといった3種類の療育教室を展開しています。

スマートキッズプラス（小学生対象）やスマートキッズジュニア（中学生～高校生対象）の教室では、10名程度のお子さまをスタッフ4～5名体制で支援する集団療育を行っております。放課後、学校から帰ってきたお子さまたちを迎え、カバンをロッカーにしまい、手洗いやうがいや検温、連絡帳の提出、個別課題への取り組みといったルーティンの中で年齢や特性の違う他者と関係を作り、生活していきます。1日の中では、集団活動といった教室のお子さま全員で取り組む時間もあります。教室には、集団の中で対人関係の課題をお持ちのお子さまが多く通所されており、「順番を守る、勝ち負けにこだわらない、相手の話を最後までしっかりと聞く、ルールを守って参加する」など、課題は様々ですが、毎日お友達や指導員と関わりながら集団の中で課題に対してアプローチを行っています。

また、スマートキッズソリスでは、それぞれの地域のニーズに合わせて、個別療育、小集団療育、集団療育というソリューションを組み合わせ、一人ひとりに最適な療育を専門的な視点から提供しています。実際に、個別で取り組めばできるけれど、実際の学校や園ではなぜかうまくできないといったお子さまがいらっしゃいます。また、集団になると練習したことが発揮できないなどといった声も実際多くあります。そのため、お子さま自身がその時の課題を適切な形で相手と練習する場や、練習したことを生活場面につなげ、実際の成功体験へと繋げていける場など、様々な支援場面を提供しております。年齢も幼児から高校生と幅広く、生活の困りごとや課題により密着した形で、オーダーメイドで細かな専門的支援を行っております。

このように、スマートキッズでは様々な療育で特性から起こる課題やお悩みにアプローチできる支援を提供しておりますが、特に力を入れているのは【支援の連携】です。

【スマートキッズ内の支援の連携 -連続した支援のために-】

スマートキッズは関東・関西に54教室と、多くの教室があり、同じ区や市内などの一つのエリア内にも教室が複数ある場合があります。その場合、近くの教室を併用して利用したり、スマートキッズプラスまたはスマートキッズジュニアと、スマートキッズソリスといった形態の違う教室を併用利用することで、お子さまの課題に様々な視点でアプローチすることもできます。

同じスマートキッズプラス同士、スマートキッズジュニア同士の場合もちろんですが、スマートキッズソリスといった形態の違う複数の教室に通う場合、例えばお子さまの課題が「他者の話を最後まで聞くことが難しく、途中で自分の話をしてしまう」であれば、それぞれの教室でこの課題の状況や取り組みについての対応をすり合わせる必要があります。もし、一つの教室では、「相手の話を最後までしっかり聞くこと」をルールとされていて、もう片方の教室では、「気になったことがあれば、途中で手を挙げれば自分の話をしてもよい」とされているなど、課題への目標や取り組みに大きくズレがある場合、お子さまによっては混乱に繋がります。また、その場でできていればよいといった、その場しのぎの支援になりかねません。そのため、お子さまが通う教室同士は必ず課題の様子や取り組みの共有、個別支援計画といったお子さまの目

標の連携を行うことで、それぞれの教室で適切に課題にアプローチをすることが必要とされます。

先ほどの「他者の話を最後まで聞くことが難しく、途中で自分の話をしてしまう」といったお子さまであれば、まずは個別教室での支援として、SSTを通して「他者の話を最後まで聞く」といった社会的に必要なコミュニケーションの基礎・会話のルールを理解できるようにお伝えすることから始めます。お伝えに対してはワークやロールプレイなど理解に合わせた支援を行います。また、自分が話をしている途中で他者に話をされてしまった場合、自分の気持ちはどうかな？など、自身の気持ちから他者の気持ちを想像するなどの質問形式で指導員と一緒にスモールステップで理解を深めていきます。一方、集団教室では、実践の場として集団活動の時間に限定して、指導員の話最後まで聞いた際にはポイントをもらうなど、お子さまに分かりやすいかたちで「できた」を積み重ねることで、体験を通して目に見えるかたちで達成感へと繋げていきます。

このように、とても小さな情報の連携であっても、日々それぞれ支援を繰り返すことで、大きな支援と課題の達成へと繋がっていきます。このスマートキッズで大切にしている【支援の連携】ですが、事業所内のみではありません。

【スマートキッズの保護者さま支援と関係地域との連携】

スマートキッズプラスやスマートキッズジュニアの教室では、家庭や学校への送迎や引き渡しのお時間で、保護者や学校の先生とお会いする機会が多くあります。その日のお子さまの様子はもちろん、最近できるようになったこと、家や学校での課題など、さらにスマートキッズで支援に繋げる良い手がかりをお話の中から拾い上げて支援に繋げていきます。この毎日の連携のみならず、家庭連携・事業所内連携といった様々な連携も併せて行っています。お子さまのご家庭またはスマートキッズの教室にて、保護者の方と指導員とでお子さまの最近のお困りごとや課題の設定、家庭での様子などのご相談を行います。いつもの引き渡しよりも長時間でまとまったお話をすることで、日頃聞くことができないお子さまの様子を詳しく聞くことができます。さらに、スマートキッズでできたことを家や学校でも同じ方法で取り組み、出来るようになったなどといった嬉しいお話を聞くことも多々あります。

また、スマートキッズソリスでは支援時間の後に保護者への直接のフィードバックのお時間があります。課題についてどのような目的をもって支援をおこなっていて、どの程度達成しているのかなど、直接細かな様子を毎週お話を設定しているため、日々の生活の様子を聞き、すぐに支援に活かすことができます。さらに、家庭でできる支援についてもご提案しており、教室で取り組んだ方法なども細かくお伝えすることで、家庭でも同様の方法で取り組めるように包括的な支援を行っています。そのため、「学校でも同じように支援をしてほしい」「他の事業所での様子も見ていただきたい」といった保護者からのお声も多々いただき、関係機関の学校やスマートキッズ以外の他事業所と連携をとることも多くあります。

特性のあるお子さまたちも私たちと同じように、集団を基本とした生活をしています。実際には配慮をしている場合であっても、集団の中であれば、それが確実にその子に合った環境設定とは言えません。そのため、学校や園、他事業所など場面が変わることでお子さまの課題に影響したり、不適切な行動が増えたりすることもあります。全てに配慮することは現実的に難しいですが、そのお子さまの一番わかりやすい指示の伝え方や理解の方法、例えば口頭指示ではなく目で見て分かりやすい視覚指示などをメインにするなどの、少しの支援で大きく理解度が変わり、成長をサポートできるのです。その取り組みは一つずつがとても小さいことかもしれませんが、成長の課程に合わせたスモールステップの支援が私たち指導員には求められます。

指導員は目の前にいるお子さまの支援に捕らわれがちですが、私たちはお子さまを通して保護者や家庭を支援していること、そして学校やその他の関わる環境と連携することでさらに適切で今、その方に必要な支援をすることが求められています。スマートキッズでは、今後も事業ごとに様々な方法で関係機関と連携を続けてまいります。

【スマートキッズ発達支援研究所の多職種連携】

最後に、この3月にスマートキッズ発達支援研究所の講演会が開催されました。医療や教育、そして福祉など様々な領域に関わる専門家の先生をお迎えし、自閉症をはじめとした特性のある方々についての理解をさらに深めていただくことを目的としてお話をいただきました。お子さまはいずれ成長し、大人になります。お子さまたちの将来を見据えて、社会に出ていくことを今のうちからしっかりと考えながら、多職種の様々な領域の専門家のみならずまで包括的にサポートしていくことで、お子さまたちが、より豊かで明るい人生を送ることができるよう、今後もより良い情報をお届けしてまいります。

福本有紗（ふくもとありさ） スマートキッズ株式会社所属 公認心理師、臨床心理士、保育士、幼稚園教諭

